

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

4時15分であります。思いのほか時間が、順番が早く回ってまいりました。5時過ぎのスタートかと思っておりましたが、ただいま議長より発言の許可をいただきましたので、これから私の一般質問をさせていただきます。

今回、一般質問に先立ち通告いたしましたのは、大きなテーマとしては新しいまちづくりについてであります。まちづくりは、やはり人づくりが大事であります。人なくしてはまちの形成はありません、成り立つものでもありません。そこに住んでいる人たちの安心・安全を考え守っていくには、議会と行政の責任は重大であります。

さて今回、一般質問は、経済振興、市税等各種滞納、地域の安心・安全、教育振興及びスポーツ振興、有権者にやさしい選挙運営について、市長と教育長にお伺いをしていきます。

先ほども言いましたように、5時は間違いなく回ると思います。御用とお急ぎでない方は最後までおつき合いをいただきたいと思います。

ちょっと一文を読みますので、聞いてください。

「花が散って、若葉が萌えて、目のさめるような緑の山野に、目のさめるような青空がつづいている。身軽な装いに、薫風が心地よく吹きぬけ、かわいい子供の喜びの声の彼方に、鯉のぼりがハタハタと泳いでいる。

五月である。初夏である。そして、この季節にもまた、日本の自然のよさが生き生きと脈うっている。

春があって夏があって、秋があって冬があって、日本はよい国である。自然だけではない。風土だけではない。

長い歴史に育まれた数多くの精神的遺産がある。その上に、天与のすぐれた国民的素質。勤勉にして誠実な国民性。

日本はよい国である。こんなよい国は、世界にもあまりない。だから、この国をさらによくして、みんなが仲よく、身も心もゆたかに暮らしたい。

よいものがあっても、そのよさを知らなければ、それは無きに等しい。

もう一度この国のよさを見直してみたい。そして、日本人としての誇りを、おたがいに持ち直してみたい。考え直してみたい。」

日本よい国、松下幸之助さんの一文であります。いかが感じられましたでしょうか。

この夏の最大の関心事は、衆議員選挙とのりピーでした。（発言する者あり）そういう人もおります。しかし、私は薬物は打っておりません。いまだにタバコをやめることができません。今、皆さんの中には、この選挙結果を受けて、期待と不安が交錯した何ともいえない気分があられると思います。

今、松下さんの言葉にあったように、日本はいいところがたくさんあるはずです。武雄にももちろんいいところがたくさんあるはずです。これらを生かしていく方法が、手段がまだ

まだあるはずです。今日、社会では、汗をかけたも汗をかけたもなかなか思うようにならないことばかりです。ただ、今までの一般質問を聞いておりましたが、質問をする側、答弁をする側も、なかなか思うに任せない社会情勢もあります。

子どものころには、とにかく汗をかけ、汗をかけばその成果はあらわれると教わりました。今の時代、なかなかそう簡単にはいかない。国民、市民の汗が実現できる世の中になるのでしょうか。

そこで、武雄市の舵取りをしていただく市長は、この局面、どう対処していかれるのか、まずお伺いをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

私が最初の市長選に出るに当たって申し述べたのが、ぬくもりのある元気な武雄市をつくりたい、それも市民の皆さんとともに、議会の皆さんとともにつくりたいということで、これは、いささかも今でも揺るぎがありません。

その中で、私は先ほど前田議員様がおっしゃられた松下幸之助さん、僕は、前田議員さんは文章がうまいですので、前田議員さんの文章かと思って拝聴しておりましたけれども、とてもすばらしい。これは、保守の論理そのものだったと思うんですね。何かいたずらに今あるものを変えるのではなくて、今あるものをよくしていこう、過去にあるものを見詰め直そうという、保守の論理だというふうに思っておりますので、これは、私も全く同感であります。

ただ、今はリーマンショック以降、サブプライムローンで、これが武雄にまで及んでいるというのは皆さんたちも御案内だと思います。そういった中で、今厳しい生活環境下にあるのを、行政として、政治としてどういうことができるかということで、今まで水道料金の引き下げ、今回お願いしております固定資産税を下げる、あるいは介護保険料を下げる、こと等々やっておりましたら、「市長は自民党より民主党だな」と言われることもあります。そういうことで、私としては、今生活支援をきちんとやる必要があるだろうと。

それと、もう1つ大事なことは、我々大人世代に課せられているのは、次の世代に引き継ぐ武雄市というのを考えなければいけない。ですので、ここで借金をいたずらに積み重ねるのではなく、いろんな豊かさをむさぼるのではなくて、我々は幾分か我慢をして、次の世代に引き継ぐことも必要なんではないかなという意味からすると、私が生まれたときには、明治生まれのおじいちゃん、おばあちゃんたちがまだ多くおられました。この人たちが何をおっしゃっていたかということ、我々は我慢して、あんたたちの世代になつごと、やっばいせんばいかんもんねということ、いろんところで――これは議員も同じだと思いますけど、聞

いておりました。そういう明治の精神というのを、我々はもう一回持つ必要があるだろうということは思っております。

そういうことで、私としては、今、現に生活がもうできないということ、そして自殺者がもう年間で3万人を超す今、何らかの支援を行政的にも政治的にもする必要があると。その上で我々としては次の世代に引き継ぐと。そのテーマがぬくもりのある元気な武雄市ということをおっしゃるので、これは、もう派閥単位とかではなくして、一致団結して、武雄にはそういう資源がそんなに多くありません。いい武雄、そして皆さんたちが住みやすい、お嫁に来てよかったと、そういう武雄市をぜひ皆さんとともに担ってまいりたいというふうにおっしゃっています。

そういう気持ちになったのも、さきのリコールに伴う市民病院のあの選挙のときでありました。あのときに、靴が何足かつぶれるぐらい地域の端々を見てまいりまして、かなり独居老人の方々がふえている、あるいはイノシシの被害が多いということで、急速に私たちの郷土の劣化が進んでいるということ、肌で、足で、そして手で感じましたので、これを何とかする必要があるということをおっしゃっています。

幸いにして武雄市は、前田議員様を初めとして、すぐれた、そしてやる気のある議員さんたちが多数おいでであります。そういった力を結集して、武雄が本当にいいまちになるように、私自身も精進、勉強を重ねてまいりたいと、このようにおっしゃっています。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

真摯なお気持ちを今聞かせてもらいました。

確かに、自民党から民主党に政権が変わった。このことで、地方行政に対していろんな変革が来るのはもう目に見えているわけですね。既に、もう今朝のニュースでも、民主党の大串さんが城原川の見直しということをもた声高く言っておられました。先ほど来の答弁の中にも、まちづくり交付金、これにしても見直しが恐らく来るだろう。そういう意味でこれからの舵取りは、たとえ以前敵であった——敵という表現はおかしいですね。なかなかつなかりが少なかった民主党であれ、社民党であれ、そこは行くべきところは行くというその勇気も必要かと思っておりますので、今後、よろしく願いしておきます。

そういう中で、さきの自民党政府の中で出された地域活性化生活対策臨時交付金、これは6月議会でお尋ねした分でございます。それで、まだ執行していない、まだ取りかかっていない部分がございます。6月議会以降、どのようになっているかをお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部理事。

○角政策部理事〔登壇〕

お答えいたします。

地域活性化生活対策臨時交付金でございますが、3月で補正をしていただいております。21事業で3億4,900万円の事業でございました。

6月議会の折に事業の進捗状況をお尋ねされたときに、10事業は事業完了、あるいは発注しておりますと。あと11事業は未発注でございますということでお答えいたしましたところでございますが、その後、11事業のうち6事業について全部発注、あるいは一部発注。まだ発注していない事業が5事業というところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

リストをいただいております。ここに、6月以降発注済みというのがチェックが入っております。未発注というのに農道改良でありますとか、橋梁整備事業、花島区の配水路等々上がっておるわけですが、これはお尋ねになります。環境整備事業というのがあるんですが、それと公共下水道の事業認可変更設計業務委託というやつ、これどういう事業か教えてください。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

お答えいたします。環境整備事業というのは、主なものは側溝整備でございます。今、皿宿と小楠の分を発注済みという形になっております。

それから、公共下水道の分は今発注して、工期を来年の2月26日までの工期で今事業認可の業務を発注しているという状況です。（「その中身はどういう」と呼ぶ者あり）中身は、32ヘクタールで今公共下水道をやっているわけですが、これがこの区域をまたふやして、あと次の工区に入っていくというための委託業務でございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

今、その2つはわかりました。ありがとうございます。

ここにデジタルテレビ整備事業というのがあります。小・中学校の地上デジタルテレビ整備事業は未発注でありますので、これは追っつけ発注があるかと思いますが、各町公民館地上デジタル対応改修工事というのが8月末に完了しております。この工事は、どういう工事の内容なのか。そして、各町公民館というのは幾つですか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

これは、地上デジタルへ対応するテレビじゃなくて工事であります。公民館というのは、橘公民館、若木公民館、武内公民館、西川登公民館、北方公民館で実施をさせていただいています。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

今、東川登が抜けているということでございます。武雄町も抜けております。武雄町の公民館にもデジタルテレビ工事はされていないということでございますが、これは、そのほかの町の公民館にも、今挙げられていない町の公民館にも今後されるのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

ほかの公民館については、もうデジタル対応できるということになっています。（「すみません」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

東川登はもう先に済んでいるそうですよ。武雄町は済んだのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

武雄町公民館については、文化会館の中での対応をいたすということで準備しています。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

武雄町には、公民館という分離した建物はございません。文化会館の中に武雄町公民館というのはございます。テレビもございません。文化会館の中にはあると思います、あります。ホールとかホワイエとかですね。そういったものを、そういうふうにして私たち武雄町の公民館は使わせていただいております。

以前に、この武雄町公民館の新築をということで、もう市長が就任された最初にお尋ねをしたことがあります、新しく今箱物を建てるのはというお考えでありますので、それを武雄町の公民館、また武雄町民も理解しておるわけでございます。しかし、文化会館の利用も

ままならない、武雄町の公民館として利用するときのままならない面もございます。ぜひ、そこも文化会館の運用とあわせて、武雄町の公民館の運用しやすさというのもお考えいただいております。これは、そういうお願いでございます。

地域活性化生活対策臨時交付金については順次発注がなされて、そして武雄市内の業者に発注をされておるようでございますので、今後ともそういう形で進めていただきたいというふうに思います。

次に、新幹線でございます。

新幹線は、先ほど5番議員さんから御質問がございました。全く立場を逆にするものですが、現在の進捗状況もでございますが、先ほど言いました政権が変わったことで、今後いろんな障がいが出てくるんじゃないか、弊害が出てくるんじゃないかというのを心配するわけでありまして。まだ、正式には民主党の総理大臣というのが、内閣ができたわけでもありませんが、今後、そのスケジュールの変更がないか等をあわせてお尋ねします。

前回の質問のときにでございますが、複線化と、「武雄市の思いとして、今の認可区間あります武雄温泉駅から諫早駅まで、この建設がフル規格で建設をされますので、武雄温泉駅にすべての新幹線の便をとめるためにも、敷設時までには機会をとらえて国・県のほうにフル規格の幅で線路幅もしていただきたいという要望を出したいということで御答弁をしたつもりでございます」という伊藤部長の答弁がございましたので、これは、その後どうされたかということをお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

1点目は政権交代に伴う話ですので、私からお答えをしたいと思います。

とっても心配しています。本当に、民主党の長崎の選出議員さんと私は何回かお話をしたこともあります。民主党の議員の皆さんたちは、ちょっと福田さんはまだお話ししたことありませんけど、お話ししたいなと思っておりますが、この方々は基本的に、やっぱり長崎の地域経済の浮揚のため、ぜひとも新幹線は必要だという認識ありますけれども、少なくとも、ほかの新聞——きょう記者さんもいらっしゃいますけれども、新聞等で拝見する限り、長崎の皆さんほどの熱意がちょっと感じられないというのは私の率直な感想でありますので、公共事業の削減に伴い、この新幹線に波及しなければいいなと、これは本当に思っています。私自身としては、もう新幹線の整備計画にのっとって、これは自民党が、あるいは公明党が決めたわけじゃないんですね。日本国政府が、政府の意思決定として閣議決定までして決めた話ですので、これは粛々とやっぱり進めていただくということは、これは私も東京に出張した際には、民主党のしかるべき方には申し上げようというふうに思っております。

いずれにいたしましても、私の心配が杞憂になることを祈念申し上げまして、私の答弁を

終わりたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事。

○伊藤営業部理事〔登壇〕

フル規格の要望の話でありますけれども、現認可路線分の事業の認可分についてでございますけれども、現在、総事業費2,600億円のうち1,840億円程度が今認可でございます。

これはどういうことかということ、まずもって今認可をなされている分は、高架並びにトンネルの建設分ということで、電化並びにレールについては、今未認可の状況にあります。当然この条件につきましては、その高架等の建設の進みぐあいによって認可をすることになっておりますので、今後、この認可に向けて取り組みを行っていくと。この際に、フル規格についても要望をしていくというふうに考えているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

あわせまして、要するに今度は武雄温泉駅から肥前山口の複線化による高速化の実現、そして安全性の確保ということも言われております。このことは県の商工会議所連合会の要望書にも書いてあるわけでありまして。これは、県、国に出す分でございますね。

同じように、鳥栖市のほうも「新鳥栖駅の周辺整備」ということで、また「鹿児島ルート」の「さくら」と「つばめ」の停車に関する要望書」というのが、県を含め鳥栖、市長会などから出されておるわけでありまして。

そこで、武雄市としては、そういう周辺整備も含めて武雄市新幹線活用プロジェクトができております。その中で、活用プランの策定ということも掲げられております。これは、もう決まったのでしょうか、まだなののでしょうか。また、どういうことをその中に考えられているか。そして、新幹線を含めて、どのような要望をされているかをお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事。

○伊藤営業部理事〔登壇〕

まずもって複線化の問題ですけれども、もう議員既に御承知と思っておりますけれども、既に鳥栖－肥前山口間については複線化になっておりまして、在来線を利用する部分についての肥前山口－武雄間が単線ということで複線化要望をしているところでございます。これにつきましては、JR通常の整備であると、JR九州の試算によると120億円程度。このうち国が30億円で、残り90億円をだれが出すかという問題でありましたので、県としては、これを整備新幹線であるということで、今なお要望は続いているものというふうに理解をしています。当然、整備新幹線で認められた場合は、県の負担が24億円程度まで圧縮されるということでご

ございますので、整備の方向性については、県の新幹線活用・整備推進課に伺ったところは、まずもって複線化についてはやると。ただ、どっちでやるかということで、今後、国に求めていきたいという思いで説明がなされたところでございます。

プロジェクトの話です。

このプロジェクトにつきましては、新幹線をどう利用して武雄市の浮揚に当たるかということを中心とした主任務にしているところであります。当然、市内の各種団体の代表の皆様方に入っていただいて、例えば、新製品の開発、お土産並びに弁当、またその観光ルートの開発等々、各課と重複する部分がありますけれども、そこは部内並びに庁内、調整を図りながら今後は進めていきたいというふうに考えていますし、具体的には、去年は先進地視察を行われて、ことしからいよいよ中身の話ということで考えているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

まだできとらんようですけども、よろしく願いしておきます。

新幹線の工事についてもであります。新幹線の工事をするについては、地元発注をということで、商工会議所、また商工会、各団体、市もですが、一緒になってその要望もしていただいていると思いますし、それが実際できているところもあるんですかね。もうできているんでしょう、地元発注というのがですね。それも大事なことであります。

西九州ルート建設に関して、地元企業がもう一部受注しておるとというのがここにも書いてございます。実際、その建設業界は大変な不況であります。もちろん、全体が沈んでおるわけでございますが、なおのことその中でも秀でているのは、やはり建設業でありますし、これらが冷めてくれば、もちろん雇用の問題にも響いてくるわけであります。そういうことも含めて、ぜひ地元利用、地元企業、地元商店、地元物品の活用も、そのプロジェクトの中にぜひ織り込んでいただきたいというふうに思いますので、よろしく願いします。

それで、その活用ということにつながっていくのではないかと思うんですが、平成21年度地方の元気再生事業、『ハーブ・レモンガラスの香りと登りの窯の炎でもてなす農業・商業連携による観光推進事業』というのが、市長の演告でもお話しがされておりました。これはどういうものなのでしょうか、まずお尋ねをします。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部理事。

○角政策部理事〔登壇〕

地方の元気再生事業の概要でございますが、これは、平成20年度から公募されております。内容につきましては、支援するメニューを定めず、地域の実情に応じた地域活動や産業振興などの提案を公募していると。じゃ、だれが応募できるかということになるとNPO、ある

いは地方公共団体、官民連携の協議会などがその対象になっております。

公募によりその企画の提出を求めて、公正、中立に選定され、今回、武雄市の郷土の提案が採択されたというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

理事答弁に補足をいたします。実は、この元気再生事業、内閣官房の地域活性化の事務局の主導で行われておりますけれども、ちょうど1年ちょっと前に内閣官房で講演をしたときに、ここの局長さんが「武雄のレモングラスだけはぜひ出してほしい」ということをおっしゃいました。「そいぎ、出すぎつくっですか」と言うたぎ、「そりゃ保証の定かじゃなか」ということはおっしゃいましたので、ただ、やはりうれしかったのは、私が内閣官房に呼ばれること自体が、武雄のある意味元気再生につながっているということと、その中でも、「レモングラス」と「佐賀のがばいばあちゃん」は必ずセットで来ています。そこに私が補足して、武雄はさらにそれよりも三本の大楠であるとか、温泉であるとか、あるいは焼き物であるとかということをする、それはすごくいいねという話をされましたので、武雄の今回の件については、選考過程は公平、中立にされておりますけれども、もともとのきっかけが内閣官房から教えていただいたということは付言させていただきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

そういうわけでこの事業に取りかかっているんでしょうが、どういう事業を進めていくんだというのは答弁してもらったですかね。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今後については、実施計画をちょっとつくらなきゃいけないということになります。ここで、武雄市の特産品活用地域活性化協議会と非常に長い協議会ですけれども、これと経済産業省が委託契約を締結することとなります。市においては、計画書に基づいてそれぞれの取り組みを行うとともに、委託費等の会計部門を担当するようと言われております。会計を担当いたしますので、本市の予算として補正予算を歳入歳出とともに組んで提出をするということになります。

委託期間について、これはすなわち事業実施期間でありますけれども、平成21年度の1年間。委託費については1,800万円ということになります。これは精算払いとなりますので、実績により国から支払いが行われるということでもありますので、そういう意味で言う

と100%国費負担ということになります。

この金額の枠内で、さまざまな事業を——ブログでも、いろんところで申ししておりますけれども、今までできなかった、し得なかった事業を積極的果敢にやる必要があるだろうというふうに思っておりますので、焼き物とレモングラスをうまく組み合わせることによって、何ができるのかなというのは非常に楽しみにしております。ここが知恵の出どころだというふうに認識をしておりますので、ぜひ議員各位におかれましても、こういうふうにしたほうがいいよと、してほしいというのがあれば、ぜひそれは教えていただきたいというふうに思っております。多聞第一を心がけていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

21年度といいますと、もうあと何カ月ということになるわけですが、大変な事業、ずっといろいろと入っています。それがミックスされて1つのものにでき上がっていく。もちろんそれから枝分かれして、いろんな事業展開が、この事業を離れたところで根が生えてくれば、芽吹いてくればいいなというふうにも思います。

しかし、この間、私は正式には聞いていなかったもので、こども議会のときに市長さんは、レモングラス課を来年度はなくすということをおっしゃっておりました。もちろん先日ですか、今さっきもちょっと見ておりましたが、ガバナンスですか、あれにもレモングラスのことは大きく取り上げられていたようでございますが、ハーブ、レモングラス云々のこの事業の軸をなす1つが、やはりこのレモングラスであります。そのレモングラス課という直接的なアクションをするその部署をなくすことで、それが今後の事業展開に影響しないかと心配するのであります。そういう心配は御無用という答弁があるかも知れませんが、あえてそういう意味では、まだあってもいいんじゃないかという質問をさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もう本当うれしく思いました。今までレモングラスが何か日陰の民みたいになって、いろんなことを言われていましたので、これでレモングラスを前田議員からこういうふうに応援していただくということは、もう本当に、本当にうれしく思っています。

その中で、私たちが考えなきゃいけないのは、レモングラスはあくまでも特命課であるんですね。そして、私が再三これは議会でも実はレモングラス課は来年度もう廃止しますということも申し上げておるその心根の部分というのは、やっぱり3年間で結果を出してほしいと。これガバナンスでも秀島レモングラス課長さんが述べられていましたけれども、やっぱり3年間、時限を切って行うということで、これが大事だと思うんですね。

今、うまくいっております。レモングラス課が頑張っておりますけれども、これを余り行政がやり過ぎると、かえって依存体質を生んでしまうと。今までは、行政のいい面が出ていますけれども、かえって悪い面が出かねないという意味から、やはり自立を促すということでもありますので、そういう意味での応援はいたします。しかし、もうレモングラス課という課を挙げてやる時代も、もうレモングラスは過ぎた（発言する者あり）そうですね。過ぎるのかなということで、あえて言葉を申し述べた次第でありますので、そういう御心配を共有していただくこと自体、前田議員さんと共有していくこと自体がハート・ツー・ハート、非常にうれしく思っております。レモングラスがとりなす縁なのかなというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

レモングラス課がなくなると張り合いがなくなるからなんですよ。せっかくこれだけのお金を使って、そしてこのまま廃れていくのは、それは武雄市の損失であります。ある意味では損失でございます。無駄なところという意味ではないですよ。無駄なところにお金を使ってどぶに捨てるという事業も長い時間にはあったようです。しかし、そういうことがないようにするためにも、武雄市はまだレモングラスを見詰めていく必要はあるし、この元気再生事業を遂行して、そして武雄市の特産物にするということをおっしゃられるわけですから、最後までやってもらいたいという意味での質問でございました。

レモングラスの元気再生事業は以上で結構でございます。もう一度、レモングラス課をなくすというところをお尋ねしたかったわけです。

これは焼き物の話になります。

武雄焼の歴史を振り返り、よさを見直そうというイベント、陶芸三夜待。これは6月のことでございますが、その中で鈴田副館長さんが、「武雄の焼き物は魅力などがありながら、唐津焼の一部とみなされてきた。“古武雄（こだけお）”と呼ぼうと提唱をした。」という記事がございます。「古唐津と呼ばれる作品のうち3分の1は武雄で焼かれた物であった。“古武雄”と呼んで、全体を“武雄焼”として、そのすばらしさを伝える」。

また、これはいつか市長も言っておられましたね。田代記者の「むつごろう」という記事でありますね、このこと。（記事を示す）「樋渡啓祐市長も、今後は武雄古来のものにも光を当てる「武雄ルネサンス」を展開するという。今こそ武雄の陶芸を「武雄古唐津」ではなく「古武雄」として見直し、「武雄人の誇り」を多くの市民に感じてほしい。そうすれば、武雄の未来はおのずと開かれる」という記事が書いてございました。

この武雄焼ということのとらえ方に対して市長は、どうお考え……。

○議長（杉原豊喜君）

間もなく5時になりますけれども、本日の会議時間は、議事の都合により、あらかじめこれを延長いたします。

答弁を求めます。樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私、焼き物が大好きなんです。本当に行く先々でいろんな焼き物を買って、後で困るといのがパターンなんです。2つちょっと申し述べたいことがあるんです。1つは、人間国宝になられた中島宏さんが、古武雄ということをおっしゃらないかというのを、たしか3年ほど前に私におっしゃいました。「先生なんですか、そいは」て言うたら、「いや、もともとの発祥は武雄ばい」と。「そいばってん、古唐津て言うじゃなかですか」て言うたぎ、「そりゃ、後の人のつけたと。私たちは古武雄て思うとっですよ」ということを、中島宏先生が私に直接おっしゃられました。

そして、もう1つ考え直すきっかけになったのが、九州陶磁文化館で、あれは武雄の二彩、三彩も出たときでありますけれども、私ひいき目に見ても、見なくても、一番いいのは、やっぱり武雄から、これはほとんど中島宏さんが出されていると思いますけれども、昔の武雄の古唐津、古武雄が一番やっぱり光を放っておりました。これは専門家の方々も異口同音に鈴田先生を初めおっしゃられますので、もともと歴史的経緯が武雄にあるということと、それともう1つ、芸術的な高さを考えたときに、本当にそうだなというふうに思いました。

そして、これは事務方から教えてもらいましたけれども、波佐見焼というのもたかだか30年だそうです。つけられて30年だということですので、焼き物じゃありませんけれども、由布院も40年前は奥別府と言ったそうです。ですので、「（「そうそう」と呼ぶ者あり）そうそう」という声も出ましたけれども、そういったことからすると、私たちが、もうあしたから古武雄と言っても、まあ、すぐにはならないかもしれませんが、やはり鈴田先生、あるいは西日本新聞の田代記者さんがおっしゃられたように、我々がやっぱり言い続けると。言い続けることによってそれが定着していくということだと思いますので、私もそういう陶芸関係の集まりがあったりとか、いろんなところに呼ばれる機会がありますので、もう古唐津の武雄焼じゃなくて、古武雄ときちんと呼んでいく必要があるだろうというふうに認識をしております。

そういう意味で言うと、名前というのは非常に大事です。焼き物の歴史そのものを見直すということと、もう1つは、武雄のプレゼンス、存在そのものも変え得る可能性があるというふうに思っておりますので、まず調べるということと、もう1つは、ぜひ展示をする場というのをこしらえたいなというふうに思っております。新たに箱物をつくるのはちょっとしんどいので、何か歴史的にあるものを生かして、何らかの展示をする場をぜひ設けたいなというふうに思っております。まだ、つまびらかには申し上げられませんが、何人かの関係者の方々とは深い理解を伴って話を進めているところであります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

また、別の記事には武雄PRの拠点ということで、温泉通りにあります場所で常設の陶磁器ショップが開設されております。空き店舗利用の1つであり、ふるさと雇用再生特別交付金を使っての出店であります。3年間ということでもありますので、常設ではありませんが、この場所からでもそういうふうな発信ができていくんじゃないか。

また、先ほどの元気再生事業の中にある焼き物というのも、ネームも入っておるわけがございます。それにぜひ取り上げていただいて、一緒になってすばらしい事業にしていっていただければというふうに考え、これが、ひいては武雄の経済浮揚、そして雇用の増大というものにつながっていけば何よりではないかと考えるわけであります。本当に厳しい情勢、財政の中であります。いろいろなものにお金を使うのは大変慎重にやらざるを得ないところがあります。どうか、このことも考えていただいて、推進していただければと思います。

それでは、次の項目に移ります。

次は、市税と各種滞納ということで挙げております。

まずお尋ねするのは、学校に納めるお金というのはどういうものがあるのか。これに滞納はないか、まずお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

お答えいたします。

学校に納めていただくお金、給食費とか、あるいは問題集やテストなどの教材費、それから修学旅行費などがございます。

現在の納入状況でございますが、昨年度の給食費で申しますと、金額にして99.8%というような状況でございます。修学旅行費につきましては集金完了しております。未納はない状況でございます。そういう形で、基本的に御協力をいただいているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

私も資料としてつまびらかに見せていただいております。どういうものが納金とか、学校に納めるものがどういうものがありますかということをおもって聞いてはおりますが、リスト、そういったものもいただいております。ですから、正確なところはわからないわ

けですが、今お尋ねをしております中では、給食費については納まっている。ほかの分についても納まっているということでございますので、次に聞きにくいんですが、滞納があったときはどういうふうに対応をされているのかお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

99.8%と金額ベースで申しましたが、やはり若干の滞納が生じる場合があるわけでありませう。学校によりましては、その場合の対応につきましても、一応その手順まで含めて考えております。最終的には催促、督促をいたしまして、あるいは面談をいたしたり、それでも無理な場合には、ずっと支払っていただく計画と一緒に話して計画を双方で交わしたりというようなことで、普通の場合はもう、学校、給食担当者、校長、教頭、あるいはP T Aの方が随分御協力いただいているわけですけれども、（293ページで訂正）一緒にお話しいただく段階で、ほぼ納めていただいているというような状況と聞いております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

それでは、次に、市税やその他の税、また使用料等については、収納状況はどういうふうになっていますでしょうか、滞納があるのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

特に、今日の厳しい経済情勢を反映いたしまして、平成20年度は平成19年度に比較しまして、市民税だけで申し上げますと93.46%から92.51%と収納率は下がっている状況でございます。ほかの使用料については、あともう1つ国保を含めて申し上げますと、19年度が90.05%から20年度は88.44%と下がっている状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

今パーセンテージで答えていただきました。金額に直すと、これは幾らになるんですか。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

20年度の不納欠損でいきますと、市税合計で4,073万円でございます。国保含めて申しま

すと、8,431万円程度でございます。

○議長（杉原豊喜君）

どうぞ。大庭政策部長

○大庭政策部長（続）

すみません、訂正をさせていただきたいと思います。今のは不納欠損ということでございました。収入未済額ということで、市税合計で4億616万円でございます。それから、国保まで含めると7億9,419万円という未済額でございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

合わせますと7億9,400万円。これが入っていないお金になるわけですね。給食費のたんじゃなかわけです。武雄市の今7億9,000万円のうち、本来入ってくる分が幾らですかね。76億入ってくるはず、調定額はですね。未収が7億9,000万円。大変に大きいんじゃないかと思うわけでありまして。このことについて、市長はどのようにお考えでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

市政運営に影響が出るぐらいの大変大きな額だというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

そのとおりではないかと思えます。一般の企業においても、これだけのお金が、入ってくるべきお金が入ってこないということになれば、大変な資金繰りをしますし、下手すればこげかねないということだと思います。当然、これに対して、それを収納しようという、そういう特別というか、税務課でされているんだと思いますが、そういう部署があるのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

現在、税務課の中に課内室でございますけれども、収納対策室を置いております。現員11名、あと嘱託徴収員を2名置いているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

その収納対策室の中で、11名の職員さんと嘱託職員さんが2名いらっしゃるということでございますが、11名で業務的にはどういうふうな内容の業務をされているのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

基本的には徴収業務でございます。特に、平日は当然でございますけれども、休日とか夜間徴収、それから納税相談等も行っております。それと、それぞれ水道料金、使用料、相当ほかにもございますけれども、そういった他課とも調整をしながら臨戸訪問等を行っております。

それと、滞納整理のノウハウを習得しながら財産調査、それから差し押さえ、公売、これは公売会、それからインターネット公売等も法的整備もしながら進めているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

滞納者に対して、その職員の方で集金に行ったり、お話をしに行ったり、もちろん、滞納をする人にもそれなりの理由があつての滞納者もおれば、たまたま振り込み損ねたとか払い込み損ねたとかいう方もおれば、根っから払う気がないと。また別に、払える生活環境にないと、いろんな事情がある、いろんなケースかあると思うんですよ。それも、やはり職員の方たちがその対応に当たっておられるのでしょうか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

ただいまお答えしましたように、職員の方で納税相談、それから臨戸徴収等を含めて行っております。相談につきましては、直接職員が出かけて行って相談を受ける場合と、また、来庁していただいて相談を受けると。そういう中で、苦しい方については分納等の御相談にも応じながら進めているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

11人の職員の方、もちろん税務課の中にそれがあるわけですね。それで、11人の職員の方というのは、大体どの程度で部署をかわられるのか。要するに、皆さんセクションを異動といいますか、それは大体何年置きなのか。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

基本的には3年をめどに人事異動というのを行っておりますけれども、こういった専門的な部署等につきましては、それが5年になったりとかいうこともございます。特に、税務課については3年から5年というのが一般的な異動の任期でございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

本当に、この部署に配置された職員の方は、どこのセクションでも大変だと思いますけど、いろんな苦情とか、いろんな文句を言われてみたりされていることもあるんじゃないかと思えます。本当、大変な部署だなという気もします。しかし、公平性を考えれば、当然、納めるべきものを納めていない方たちに対する対応ですから、それなりの厳しい対応もしなくてはいけないときがあるかと思えます。それは、その職員がなさるといのは、もちろん大変なことだと思いますし、いろんなケースがあるんじゃないかと思えます。

これは、私たちの会派で調査をしましたときの1つの例であります。

香川県の善通寺市というところでございます。ここには、債権管理局というセクションがございまして。いわゆる税の徴収ということで毅然たる対応でということで、ちょっとこれは、i JAMPの「クローズアップ」という記事の中に書いてあるわけですが、税や税外債権の徴収などの業務を担う債権管理局、市民部長から局長に就任したこの局長さんは、以前、税務課長のときに税の収納率が落ち込んでいた。そこで、人員削減などによって、徴収担当者がいなかったと振り返るといことでございます。収納率を上げるため、再び担当者を置く方法もあったが、以前から、かばんを持って職員が滞納者を回るやり方は基本におかしい。試行錯誤の末——これは以前、市営住宅の適正化対策ということで、大変御苦労をなさっている課長さんだったわけですね。——ひねり出した妙案が、いわゆる専門性を有している人間を外部から招くことだった。そこで、地縁や以前の業務に左右されずに、専門的な知識を持って継続的にその仕事をこなすことができた。

ですから、中には、国税庁の元職員なども採用した。いわゆるこちらのまちで言うIターン、Uターンの制度を利用して、こういう専門性のあるスタッフを中途採用してみたり、嘱託としてそういう方たちを採用してみたりしているそうでもあります。国税庁や金融機関でその税徴収の債権回収の実務経験がある職員が8人。そのほかにも、これは不動産屋さんのOBだとか、いわゆるサラ金、そういう金融関係のOBだとかUターンだとかも中途採用しているそうでもあります。

ここの組織は、いわゆる税務課という、債権管理局の中には税務課というセクションもあるわけであります。そのほかに債権第一課という、いわゆるここには国税徴収課のOBが課長として入っておられるわけですが、そういうセクション、それともう1つは、債権第二課というのは、そのほかの、いわゆる手数料とか住宅とか、それと学校のお金だとか、そういったものも含めてその第二セクションでやると、そういうことをされているそうであります。これは、また何かの機会に、もうもちろん御存じのことだと思いますが、こういう形で中途入社、中途採用、もしくはそういう方たちのOBを嘱託として雇うという方法で、ここは何億円あったのかな——市税等の収納未済額が平成11年度に4億5,000万円、5億円あった。それが、19年度に2,800万円程度まで回収したと。それが1つの努力ではないかというふうに思います。そのことについて市長はどういうふうにお考えかお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

まず、収納対策室の現員11名と嘱託の徴収員2名を抱えており、そういった意味からすると、議員が御指摘のことは、もう既に行っておると思っております。

その中でぜひ御認識いただきたいのは、武雄市は、これはほかと比べるのが適当とは思いません。しかし、収納率も、後の回収率も、他市と比べた場合に非常に高い水準にありますので、そういう意味からすると、収納対策室長以下、非常によく頑張っていると認識をしております。

私としては、この前、佐賀新聞でしたっけ、佐賀県の滞納推進整理機構が非常によく頑張っているということで、今、武雄にも支所の機能があります。そこに私とすれば、市町の派遣職員の徴収技術の向上と、実際の徴収の実務を経験させたほうが効果がさらに上がるだろうというふうに思っております。ここで実際取りに行き、また帰ってきたときにその実務経験を生かしてほしいという思いから、武雄市においては、平成22年度から職員をこの整理推進機構に派遣をしたいと、このように思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

それも一つの方法ですね。しかし、どちらでも市長が取るほうを取ってください。ただ、七十何億円のうちの7億円だという、つまり、それだけの重い部署を背負っている職員も大変だということであります。

次に移ります。

スポーツ振興等及び教育振興について。

全国学力テストがどういう内容だったのかその結果はどうだったのか。また、悪い面、よい面、よかった面というのがあるかと思えます。そういったことも、またそれがなぜなのか、あわせてお尋ねをします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

全国学習状況調査については、せんだって結果が出たところでございますが、御存じのとおり、小学校6年生、中学校3年生で、小学校は国語、算数、中学校は国語、数学、そして国語、算数、数学とも知識を中心にしたA領域と、活用面を見るB領域という出題であったわけでありませう。

概略申しますと、小学校につきましては国語、算数ともに、県、全国レベルよりも数値上は高い状況にあると見ております。中学校につきましては、皆様方御承知のとおり、県立中学校ができた後の中学校3年生ということでございませう。そういうことまで含めまして危惧していたところもあるわけでありませうが、ほぼ全国レベルの成績を上げてくれております。

私のほうは、むしろ学習状況調査のほうに着目をいたしております。これは、小学生、中学生にとりまして、やはり学習習慣、生活習慣が成績に影響するところが大きいからであります。小・中ともに県、全国レベルより高かったのが、朝食を必ずとる、それから近所の人にあいさつをしている、それから今住んでいる地域の行事に参加している、それから、携帯電話のメールは使用しないほうでのよさであります。今申し上げたような小・中学生の状況が、県、全国レベルよりも高い状況にございませう。これは、学習を成り立たせる基盤、地域の、家庭の教育力ということで、これからも大事にしていきたいと考えております。

一方、悪いというか、数値的に劣っている面でございますが、それだけの成績を取っているにもかかわらず勉強時間が短い、それから宿題はするが予習や復習ではない。言われたことをまじめにこなしている宿題になっていると。それから、家の人と学校での出来事について話をしているかという問いがやや低い。中学生でもう少しと思ったのは、いわゆる自分にもよいところがあるという意識、この自尊感情を育てる。こういうあたりが、今後、力を入れてやらなければいけないことだろうというふうに思います。

なぜ悪いか、なぜよいかという面については、いろんな要素が絡んでいるわけでありまして、ただ、今子どもたち、先生方ともに、各学校も含めて非常に頑張っているという判断をいたしております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

ありがとうございます。全国レベルよりもよいという評価でございます。一安心はしました。確かに、皆さん御心配だったと思いますが、これは、県立宇宙科学館の記事であります。が、「科学する心の子どもたちへの芽生えをさせたい」ということが書いてございます。

「若い世代の理科離れが叫ばれて久しい。単に理科や科学の分野にとどまらず、論理的に物事を考えるかどうか、生活全般に関係する問題であり、この弱体化が深刻な問題と呼んでいる」ということで、宇宙科学館でもいろんなイベントを今度されておりまして、その子どもたちの好奇心というものをかき立てるものがありました。

また、武雄高校では、今あそこに看板がついておりますが、缶サットという模擬衛星を飛ばして優勝をして、今度9月にアメリカで開かれるその大会にも出場をするということでもあります。もちろん、これは高校での教育であります。それは、その基礎をなすものが、先ほどのこういう学力テストということではなく、それを育むそういう環境の中にあるのではないかと考えます。

この缶サットのことは、「理数が楽しくなる教育」実行委員会というところが運営されております。大学生が高校生を指導するという形をとっているようでございます。いろんな指導の形態があるかと思いますが、そのこともあわせてお考え置きください。

次にお尋ねしますのは、スポーツ振興でございます。

来月の17日、18日と2日間にわたって、第62回県民体育大会が武雄で開かれます。武雄市、前回6位という成績でございました。大変健闘されて、今回も活躍が期待されますが、県内はもとより、全国レベルの選手を育てるとなれば、どのような競技種目でもまず素質のある人材を見出すことが第一であります。競技人口の厚さ、そして指導体制、施設、設備の充実など、養成を図るための息の長い取り組みが必要になってくるわけでありまして。

先ほどの缶サット、また理科離れではありませんが、ノーベル賞受賞者は、日本でも湯川博士を初め、物理学7名から始まり、全部で今16名が受賞されております。もし、仮にこの武雄から、物理、科学の分野でノーベル賞を受賞するような人材があらわれるようなら、世界に競争ができるような地場産業との連携も育っていくかもわかりません。

もちろんスポーツにも、ノーベル賞にしても、1人の天才が偶然に出現するわけではありません。人材を輩出するために、いろんなスポーツ教育振興策に基づいた、官民が一緒になった取り組みが必要だと思いますが、教育長はどういうふうにお考えかお尋ねをします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

ノーベル賞からトップアスリートまで、要するに全国に通用するような人材を育てましょうという御意見だというふうに思っております。義務教育の段階では、私がお願いしており

ますのは、知・徳・体の3領域のより高いレベルでの育成というのを校長先生方にもお願いをしているわけでございます。それは、先ほど申しましたように、家庭の協力も要りますし、地域ではぐくんでいただく、先ほどの言葉をおかりしますと、官民一体ということだろうというふうに思います。その上で、実は来週15日からは、「武雄市キャリアスタートウィーク09」などもするわけでありますが、今度は、企業や事業所の方の応援なんかも得て、職業体験もしながら自分の特性も生かしていくと。

また、スポーツ面につきましても、学校の部活動はもちろんですし、社会体育、それから地域の方が自主的にボランティアで教室を開催していただいていることもございます。あるいは、関西大学との交流で新たなスポーツを知るというようなこともございます。

また、幼少時からフットサルクリニックとかスポーツクラブです。そして健康スポーツクラブの幅広い健康増進の取り組みもあるわけでありまして。お話にありましたように、より基盤を厚くしながら、そしてその中のすぐれた人材はすぐれた人材として伸びる環境をつくっていくと、そういうことが今必要なことだというふうに思っているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

そういう環境をぜひつくっていただきたいと思うわけでありまして。

この質問は、今武雄高校のことを言いましたけれども、「お一つ」と、実はびっくりしたわけです。「えっ、世界大会に。すばらしいな」。これも、そういう教育環境、またそういうふうな指導者もいらっやっしたんでしょう。そういうことを考えてこの質問をさせていただきました。

トップアスリートといいますか、そういう意味では、武雄には競輪場という自転車競技のそういう施設もあります。その中では、以前はジュニアレーサーバンク体験というのがあったように思います。最近それはあっていないんですかね、営業部長。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

ことはあっていないようでございます。昔、物産祭りとタイアップして、そういう催しはあっていたように思います。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

催しというか、そういう体験、それがまた変わっていろんな選手の育成だとか、そういったものもやれる場所があるんじゃないかと思えます。競輪課に聞きましたところ、何かある

そうです。ちょっと題名は忘れました。まだ決まっていないそうですが、自分たちはそういうことも考えたいと思いますということをおっしゃっております。

これは、茨城県知事に、この間の選挙で競輪選手が県知事選に出たんですよ。惜しくも落選はされましたが、それなりの票を取っております。幾らですか、26万票ですよ、すごいものです。もちろんこの方は、オリンピックの銀メダリストですよ。ですから、文武両道、いろんな意味で、いろんな強者が育ってくるかもわかりません。そういう意味では教育長、よろしく願いをいたしておきます。よろしいでしょうか。いや、もう結構です。

次に行きます。最後の質問です。

有権者に優しい選挙運営というふうに書きましたが、これは何を言いたかったかといいますと、率直に私が言えなくて、こう回りくどく言うのが私であります。そういうふうに書いてしまいました。要するに、今度の選挙では、本当にヒートアップして、いろんな人が、いろんな形で関心を持っております。政権選択でありますとか、政策選択でありますとか、いろんな意見が分かれたわけでありまして、この真夏の選挙で、本当に大変だったと思います。そういう意味で、選挙、投票所に対しての夏場対策はされていたのかということと、それと一番気になるのは、それだけの関心のあった期日前投票、これがどのくらい伸びたのかというのをお尋ねしたかったうちの1つであります。まずお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

大宅選挙管理委員会事務局長

○大宅選挙管理委員会事務局長〔登壇〕

投票所に関しまして、苦情とかはなかったかということでございますけれども、選挙時には、市内に36カ所の投票所を設けておりまして、特に今回は残暑の厳しい中での選挙となりましたけれども、投票所の関係に関しての有権者からの苦情は特に受けておりません。問い合わせがありましたのは、投票所の一部について場所がわからないから教えてほしいといった件で、案内対応をいたしたところでございます。

それから、期日前投票につきましては3カ所の投票所を設けておりまして、17日間で5,255人の投票がっております。有権者数の13%という数字でございます。前回は3,633人ということで8.7%という数字でございました。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

期日前投票という制度ができて大変利用しやすい、一々投票券を持っていかんでよかとか、いろんな形で自分を証明できるようなシステムになっております。きょう、この中で期日前投票を利用した方いらっしゃいますか。はい執行部、手を挙げてください。はい、では、どういうわけで期日前投票をされたのかお尋ねをします。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事

○伊藤営業部理事〔登壇〕

私の場合は、期日前の事務を1つ行いました。

それと、当日ちょっと私用がありまして、昼に投票所に行くことができないということで、その事務の折に済ませたということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

やはり、仕事の都合が、今までの不在者投票というのは、非常に不便でもあったわけです。この期日前投票をすることで投票率が少しでも伸びて、また、ましてやこういうふうな大きな選挙、そしてまた夏場の選挙の中では、こういう制度が大変に効果が出てきたのではないかという気もいたします。

そして、もう1つの疑問であります。この選挙のポスター掲示板を立てる場所というのは、武雄市全体、1区、2区も3区も合わせまして武雄市全体で何本立っているのか、そして、それはどのような基準で立てられているのか、どうやってだれが決めているのか、お尋ねをします。

○議長（杉原豊喜君）

大宅選挙管理委員会事務局長

○大宅選挙管理委員会事務局長〔登壇〕

ポスター掲示につきましては、市内243カ所実施いたしております。

ポスター掲示の設置につきましては、各投票区の面積、あるいは有権者数で設置が定められておりまして、公職選挙法の規定に基づき設置をいたしておるところでございます。

決定の際には、事前にすべての予定地の現地調査を行いまして、選挙管理委員会のほうで決定をいたしております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

人口といいますか、その投票区内の人口を計算して、武雄町には何本、投票所区域内の選挙人名簿登録者、それを案分してされているんだと思います。本当に、選挙に対する選挙の貴重な道具の1つであります。選挙民がよく見えるような場所に立てていただくのがベターかと、本当だと思うわけですか、2カ所ほど非常にわかりづらく立ててあるところがございました。大野のコミュニティセンターの掲示板と、踊瀬の掲示板については、地元の方たちはよく見える場所に立っているんだと思いますが、私が思っていた従来の場所と違っており

ました。

大野の公民館は、公民館の敷地内に、通常の道路側からすれば背を向けて立っていたわけですね。以前はもっと手前に出してあったと思うんですが、どうしてそういうふうなことになったのか、そこまでお尋ねをしておきます。

○議長（杉原豊喜君）

大宅選挙管理委員会事務局長

○大宅選挙管理委員会事務局長〔登壇〕

ポスター掲示の設置場所につきましては、地域の方、有権者の方が見やすい場所を基本にしておるわけでございますけれども、自治公民館、あるいは集会所は特に人がよく集まるといことで、じっくり見てもらうという意味から公民館、あるいは集会所の近くに設置をいたしたところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

今回の選挙というのは今度の4月になるわけでしょうけれども、今度の4月の選挙になれば、市長選挙もちろんそうですが、市会議員の選挙もでございます。市会議員選挙の看板というのは非常に大きいものでございます。設置場所にも苦勞をされるかと思いますが、ぜひ、いわゆる有権者が見やすい、そしてそういう場所に立ててもらいたいと思いますし、立てる場所とかについては、やはり従来の場所が一番よろしいのですが、地元の区長さんでありますとか、地元のそういう方たちにお話しをされるというのも一つの優しい選挙の運営ではないでしょうか、ということをお願いして、私の一般質問を終わります。お疲れさまでした。

○議長（杉原豊喜君）

以上で13番前田議員の質問を終了させていただきます。